

酒田市学校施設整備方針【概要版】

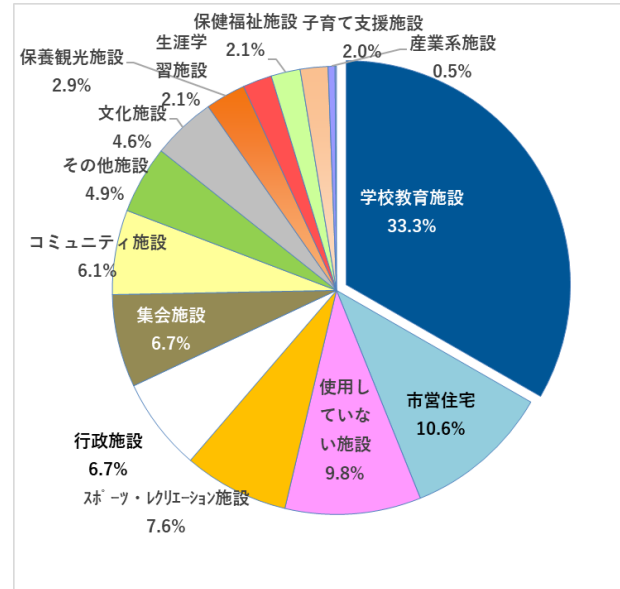
1 背景・目的等

学校施設は、市が保有する全公共施設面積の33.3%の面積を有し、今後集中的に更新時期を迎えようとする一方、少子化による児童生徒の減少と学校規模の小規模化が進み、今後更に進むことが予測されています。

これを踏まえ、施設の長寿命化及び学校規模の適正化を進めることにより、ライフサイクルコストの縮減及び財政負担の平準化を図ることを目的とします。

【対象期間】令和3年度～令和42年度（40年間）

【対象施設】小学校22校、中学校8校、

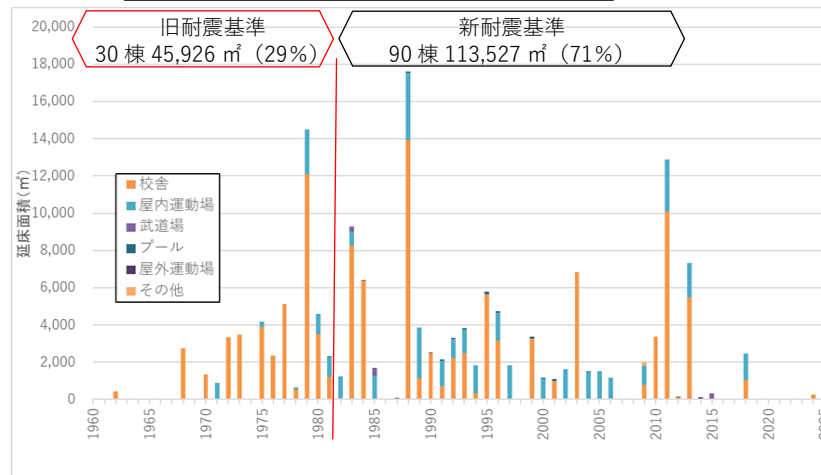
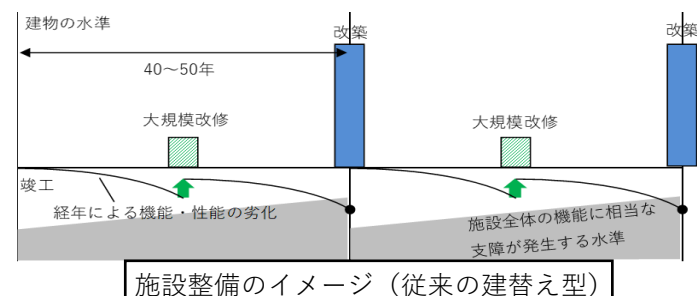


2 取り巻く状況と実態

1970年代から80年代にかけて、人口増加に伴う児童生徒数の増加に合わせて、多くの建物が集中整備され、特に1979(昭和54)年は6棟14,487㎡、1988(昭和63)年は9棟17,627㎡と集中しています。

築30年を超える建物は86,202㎡で全体床面積の54%を占めています。さらに築20年を超える建物を含めると115,532㎡となり、全体床面積の72%に達し、老朽化が進んでいます。

従来の建替え型での施設整備を今後も行うと想定し、建設後30年で大規模改修、60年で建替えを行う条件で試算した場合、40年間の維持・管理コストは、総額556億円、年平均では13.9億円/年となります。



3 目指すべき姿と整備方針

【目指すべき姿】

- ①新しい時代の安全・安心な教育環境の確保
- ②学習・生活環境の質的向上
- ③計画的・効率的な学校施設の整備
- ④学校施設の適正化と有効活用（複合化・共用化）

→児童生徒の減少等による近隣校との統合への対応等

【整備方針】

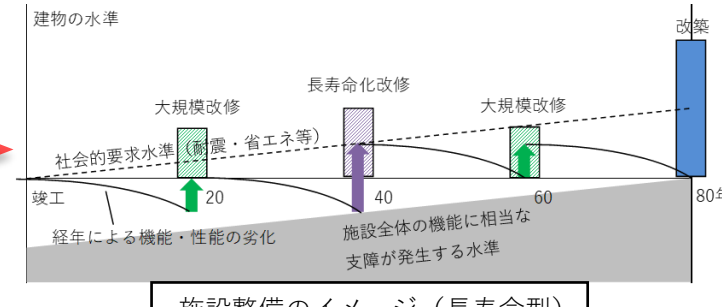
| 機能回復 | 大規模改修 |
|------|---------------|
| | ・屋上防水改修 |
| | ・外壁改修 |
| | ・設備機器更新 |
| | ・老朽化の著しい部位の修繕 |
| | ・故障や不具合の修繕 |

| 長寿命化改修 | |
|--------|---|
| 機能回復 | ・構造躯体改修 ・屋上防水改修 ・外壁改修 ・内部改修 ・設備機器・設備配管等更新 ・グラウンド改修 |
| 機能向上 | ・サッシ改修 ・内部改修（学習形態等への対応・省エネルギー化） ・機能向上・省エネルギー化に伴う設備システム変更・機器交換・配管配線交換 ・バリアフリー改修 ・防災・防犯改修 ・高耐久改修 |

- ・部位別改修
- ・建設後30年程度での大規模改修
- ・事後保全

- ・目標使用年数を「80年」とし長寿命化
- ・計画的かつ効率的な改修
大規模改修：建設（長寿命化改修）後20年
長寿命化改修：建設後40年
- ・優先順位を付けて財政負担の平準化
- ・予防保全の視点で計画的改修

施設整備方針の転換



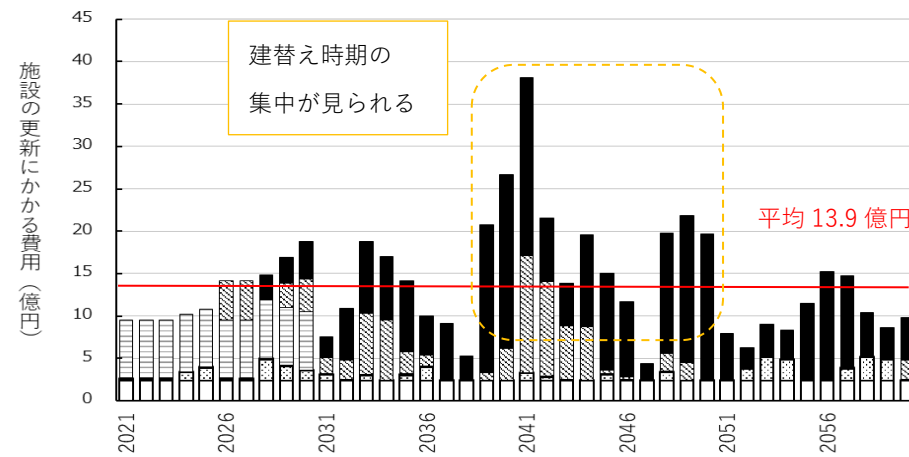
4 長寿命化実施方針

建設（長寿命化改修）後20年で大規模改修、40年で長寿命化改修、80年で建替えを行う条件で試算した場合、40年間の維持・管理コストは、総額519億円、年平均では13.0億円/年となり、従来の建替え型の年平均13.9億円/年と比較して、約7%（年間約0.9億円）の削減効果がみられます。

※改修工事等は学校施設の実際の劣化度や緊急性を確認した上で優先順位の高いものから行っていきます。

※長寿命型によりコストは平準化されますが、長寿命化改修時期が集中する期間があります。

※実際の整備に当たっては、本整備方針を基に財政状況、令和8年度中に策定する「酒田市学校統合ビジョン（仮称）」や小中学校適正規模・適正配置の審議状況等を踏まえた上で、総合的に判断します。



| 40年間に必要なコスト | |
|-------------|----------|
| 大規模改修 | 156.10億円 |
| 建替え | 272.68億円 |
| その他施設関連経費 | 127.53億円 |
| 合計 | 556.30億円 |
| 年平均(合計) | 13.91億円 |

△37億円 (年平均△0.9億円) の削減効果

ライフサイクルコストの縮減

| 40年間に必要なコスト | |
|-------------|----------|
| 大規模改修 | 103.58億円 |
| 長寿命化改修 | 185.21億円 |
| 建替え | 102.93億円 |
| その他施設関連経費 | 127.53億円 |
| 合計 | 519.25億円 |
| 年平均(合計) | 12.98億円 |

